

## そ の 他

## 医学用語 歯牙・歯牙年齢の正当性を擁護する

## その二. ヒトの口腔内に牙は存在しないか

藤 田 淨 秀<sup>1)</sup>, 座 間 正 和<sup>2)</sup>, 李 憲 起<sup>3)</sup><sup>1, 2)</sup> 逗子病院 <sup>1)</sup> 内科, <sup>2)</sup> 放射線科<sup>3)</sup> 松本歯科大学 口腔顎顔面外科学講座**Key words:** 医学用語 歯牙 歯牙年齢 歯牙年齢

## I. 諸 言

先に筆者等は、大きく開けた口から何本かの「は」が見える様子を象った象形文字の「は」に音符の「止」が加えられて「齒<sup>かたど</sup>」の文字が誕生し、始めは歯は「は」のみを意味したがヒトを含めて歯の萌出状態から動物の年齢の分かる事から次第に歯は「よわい」の意味にも使われるようになった為に歯の意味が多義的となり、その後、その多義性を解消する為に前者は同じ意味を有する「牙」との組合わせで「歯牙」と成り、後者は「齢」を経て同じ意味を有する「年」との組合わせで「年齢」と成る事によって「歯牙」は「歯牙 (tooth)」しか意味せず、「年齢」は「年齢 (age)」しか意味せず、ここに「齒」の多義性は解消される事になった変遷過程を述べた<sup>1)</sup>。その際、力点を「年齢」に置いた為に、既に万人周知であるかの如くに、口腔内にある「齒」と同様の意味を有する「牙」との組合わせで「歯牙」と成る事によって「歯牙」の熟語が成立したと述べたが、「齒」と「牙」、特に「牙」に関する検討を先延ばしにしてさらりと論を進めた<sup>1)</sup>。

従って、本稿では「歯」と「牙」について検討するが、特に「牙」が本当に「は (tooth)」と同じ意味を有するか否か、ヒトの口腔内に「牙」があると言えるか否かについて今一度検討する事にする。

敢えて「牙」を問題とする理由は、ヒトの口腔内に<sup>きば</sup>牙は無いので「歯牙」の用語はおかしいとする考えを仄聞する事と医学用語「歯牙」が単に「歯」と表記される流れ、すなわち「歯牙から歯へ移行する流れ」が有る事からである。

尚、本稿では文脈に応じて適宜新字体（歯）と旧字体

（齒）とを使い分けるが、なるべく新字体の使用を心掛ける。

また、漢字の振り仮名は音読みには片仮名を、訓読みには平仮名を用いる。

## II. 歯牙から歯へ移行する理由は何か

歯を意味する歯牙は、久しく医学用語として用いられて来た。「歯牙」が「歯」を意味する事には何の疑義も無かった。

ところが、特に平成十年頃よりヒトの口腔には<sup>きば</sup>「牙」は無いので歯を歯牙と呼ぶのは間違いであり、歯牙から牙を取り除いて「歯牙」は単に「歯」と呼ぶべきであるとする考えを仄聞する様になった。しかし、日本口腔外科学会雑誌は「歯」を用いていたが、口腔外科学に関連する日本口腔科学会・日本口腔病理学会や他の学会では必ずしも歯牙の代わりに歯が用いられていた訳では無い。

この様な見解が何時どこで纏められたのかを示す資料は不明である。歯科大学・歯学部等の幾人かの口腔外科学や口腔病理学の元教授に問い合わせたが、確かに「歯牙」から「歯」への移行が認められ、いつの間にか「自ら」も「歯牙」ではなく「歯」を用いたが、その根拠は不確かで「ヒトの口腔内に<sup>きば</sup>牙が無い事」がその理由・根拠かどうか不明であるとの回答であった。このたび本稿を執筆するにあたり文献を渉猟したが、筆者等の渉猟し得た範囲では町屋の意見<sup>2)</sup>を見出し得たのみであった（因みに、私信で問い合わせたところ論文には成っていないとの事であった）。町屋<sup>2)</sup>はヒトの口腔内に<sup>きば</sup>「牙」は無いので用語「歯牙」は不適切であると述べている。

医学用語辞典<sup>3)</sup>で、Tooth・Zahnを手掛かりに「歯牙」の付く用語を調べてみると、歯牙平面・歯牙硬組織・歯牙支持組織・歯牙断面・歯牙切斷・歯牙疾患・歯牙のう(嚢)胞・歯牙発生・歯牙發育不全・歯牙変色・歯牙侵食[症]・歯牙萌出・歯牙難生・歯牙逆生・歯牙捻転・歯牙転位・歯牙破折・歯牙動揺・歯牙脱臼・歯牙し(弛)緩[症]・歯牙脱落・歯牙喪失・歯牙欠損・歯牙充填[術]・歯牙移植[術]・歯牙検診・歯牙年令(齡)・歯牙癒着[症]・歯牙萎縮[症]・歯牙穿孔[症]・歯牙吸収[症]・歯牙融合[症]・歯牙摩耗[症]・歯牙咬耗[症]・歯牙腫・歯牙骨腫等、「歯牙」が用いられている(用語記載は原本通り)。

Dentalを手掛かりに調べてみたが、「歯の○○」の用語は見出せなかった。他方、学術用語集 歯学編<sup>4)</sup>で「歯の○○」を手掛かりに調べてみたところ、歯のフッ素症・歯の移植・歯の形成・歯の結紮・歯の記号・歯の硬度・歯の捻転・歯の再植[法]・歯の死亡率・歯の弛緩・歯の致命率・歯の沈着物・歯の融(癒)合等が収載されており、歯科医学の分野では遅くとも平成四年には「歯牙」の代わりに「歯の」を使用していた事が明らかである。それにも拘わらず歯牙分割・歯牙エナメル上皮腫・歯牙異形成症・歯牙吸収・歯牙亀裂・歯牙骨膜線維・歯牙歯肉境・歯牙歯肉線維・歯牙腫等、「歯牙」を用いた用語も収載されている。従って、如何なる時に「歯の○○」を、あるいは如何なる時に「歯牙○○」を用いるのか、その使い分けの基準は明らかではない。

医学用語が「歯牙」から「歯(の)」に移行しつつある理由を文献的に明らかにする事は出来なかった。

### Ⅲ. 歯の意味の検討

「歯」に関しては我々がよく理解してる通りで、特に問題は無いので簡単に述べる。

(一) 国語辞典

広辞苑<sup>5)</sup>で「歯」を調べると、は【歯】①鳥類を除く脊椎動物の口腔内にあって、食物の摂取・咀嚼・攻撃・防御にあずかる器官。(以下省略) ②歯の形をしているもの。とあり、「.. 足駄の歯..」「鋸の歯」が例示されている他に、「歯が立たない、歯に衣着せぬ、歯の根を鳴らす、歯を噛む、歯を切す.. 等」の成句が例示されている。「歯の根を鳴らす」は「歯を食いしばって無念さに耐えている様子。また、怒り狂っているようす。」を意味し、「歯を噛む」は「歯をかみしめて残念がる。歯ざりする。」事を意味し、「歯を切す」は「歯をくいしばる。切歯。」を意味する。

「歯を切す」、すなわち「切歯する」という動詞があるらしいので更に調べてみると、せっし【切歯】①歯と歯とをきしり合わせること。歯をくいしばること。はがみ。はぎしり。②口中の前方中央の歯。と記載されている。

(440) **〔牙〕** 俗字 5924 **〔字義〕** ①は(齒)。⑦齒の総称。齒とも牙ともいう。④奥齒。⑤いとときり齒。犬齒。ライオン・犬・猫などの犬齒、象の門齒の大きくなったもの(象牙・ヅツなど)。①武器・悪意など、人を害するものをたとえていう。「毒牙」②人を守り助ける物または人のたとえ。③かむ(嚙)。かみつく。④天子または將軍の旗、竿の上部に象牙ヅツのかきりがある。牙旗。⑤本営。將軍の旗の立てている所。⑥役所。牙門。⑦さいとり。仲買。売買の仲介をして手数料をとる者。「牙錢」⑧め。また、めばえる。 **〔難読〕** 牙はい・さい・牙買加マイカ・牙埋加マイカ

**〔参考〕** 牙は四画。↓部首解説。

**〔解字〕** 文 象形。きばの上下がまじわる形にかたどり、きばの意味を表す。牙を音符に含む形声文字に、芽・牙・訝・雅・邪などがあり、これらの漢字には、「きば」の意味を共有するものが多い。

**〔逆童字〕**

図 1

牙の意味 漢語新辞典 文献6)より引用.

そう言えば「せっしーやくわん」という言葉があった。  
【切歯扼腕】は、「感情を抑えきれずに甚だしく憤り残念  
がる。」事である。

しーが【歯牙】を見ると、①歯と牙。また、歯。②転じて、言葉。とあり、「歯牙」は単に「歯」のみを意味する事が有る。「歯牙にもかけない、歯牙の間（かん）に置く」の成句が例示されている。「歯牙にもかけない」は「問題にしない。無視する。」事を意味し、「歯牙の間（かん）に置く」は「論議の対象とする。問題とする。」事を意味し、「歯牙に挂（か）く」とも言われる。これ等の成句では疑い無く「牙」は「歯」を意味する事が知られる。しかも、その他に「言葉」をも意味する。後者の出典は由緒正しい前漢の司馬遷撰「史記」である。「歯牙」の熟語は二千年以上前に既に成立して現在に至っている。

「歯牙」が日本の現在の国語辞典にも収載され、我々は「歯牙」を何の違和感も無しに「は」の意味として使用している。

## （二）漢和辞典

漢語新辞典<sup>6)</sup>では【齒】は、①は。㊦口中の食物をかみくだくもの。また、獣の牙（きば）の類。④の齒の形をしたもの。また、齒に似た働きをするもの。「鋸齒」「齒車」②よわい。年齢。年。③よわい-する。㊦年齢順に並ぶ。④つらなる。並ぶ。④数。また、数える。馬の齒を見て、その年を数える。年齢を数える。⑤さいころ。⑥たぐい。同類。仲間。⑦しるす（記）。記録する。⑧当たる。ふれる（触）。等の意味を有する。

漢字源<sup>7)</sup>では【齒】は、①は。物をかんでとめる前ば。また、広く、はのこと。②よわい。とし。年齢。「年齒」

<p>【歯】 ① 歯。② 犬歯。③ 象牙。④ 犬歯。⑤ 犬歯。⑥ 犬歯。⑦ 犬歯。⑧ 犬歯。⑨ 犬歯。⑩ 犬歯。⑪ 犬歯。⑫ 犬歯。⑬ 犬歯。⑭ 犬歯。⑮ 犬歯。⑯ 犬歯。⑰ 犬歯。⑱ 犬歯。⑲ 犬歯。⑳ 犬歯。㉑ 犬歯。㉒ 犬歯。㉓ 犬歯。㉔ 犬歯。㉕ 犬歯。㉖ 犬歯。㉗ 犬歯。㉘ 犬歯。㉙ 犬歯。㉚ 犬歯。㉛ 犬歯。㉜ 犬歯。㉝ 犬歯。㉞ 犬歯。㉟ 犬歯。㊱ 犬歯。㊲ 犬歯。㊳ 犬歯。㊴ 犬歯。㊵ 犬歯。㊶ 犬歯。㊷ 犬歯。㊸ 犬歯。㊹ 犬歯。㊺ 犬歯。㊻ 犬歯。㊼ 犬歯。㊽ 犬歯。㊾ 犬歯。㊿ 犬歯。</p>	<p>【牙】 ① 牙。② 牙。③ 牙。④ 牙。⑤ 牙。⑥ 牙。⑦ 牙。⑧ 牙。⑨ 牙。⑩ 牙。⑪ 牙。⑫ 牙。⑬ 牙。⑭ 牙。⑮ 牙。⑯ 牙。⑰ 牙。⑱ 牙。⑲ 牙。⑳ 牙。㉑ 牙。㉒ 牙。㉓ 牙。㉔ 牙。㉕ 牙。㉖ 牙。㉗ 牙。㉘ 牙。㉙ 牙。㉚ 牙。㉛ 牙。㉜ 牙。㉝ 牙。㉞ 牙。㉟ 牙。㊱ 牙。㊲ 牙。㊳ 牙。㊴ 牙。㊵ 牙。㊶ 牙。㊷ 牙。㊸ 牙。㊹ 牙。㊺ 牙。㊻ 牙。㊼ 牙。㊽ 牙。㊾ 牙。㊿ 牙。</p>	<p>【牙】 ① 牙。② 牙。③ 牙。④ 牙。⑤ 牙。⑥ 牙。⑦ 牙。⑧ 牙。⑨ 牙。⑩ 牙。⑪ 牙。⑫ 牙。⑬ 牙。⑭ 牙。⑮ 牙。⑯ 牙。⑰ 牙。⑱ 牙。⑲ 牙。⑳ 牙。㉑ 牙。㉒ 牙。㉓ 牙。㉔ 牙。㉕ 牙。㉖ 牙。㉗ 牙。㉘ 牙。㉙ 牙。㉚ 牙。㉛ 牙。㉜ 牙。㉝ 牙。㉞ 牙。㉟ 牙。㊱ 牙。㊲ 牙。㊳ 牙。㊴ 牙。㊵ 牙。㊶ 牙。㊷ 牙。㊸ 牙。㊹ 牙。㊺ 牙。㊻ 牙。㊼ 牙。㊽ 牙。㊾ 牙。㊿ 牙。</p>
--	---	---

図2

牙の意味 漢字源 文献7)より引用、一部改変。

図3

牙の意味 新字源 文献8)より引用。

③<sup>シ</sup>すよわいする。年の順に並ぶ。④<sup>シ</sup>馬の歯を見てその年をはかる。⑤<sup>シ</sup>順番にならぶ。同類に数えられる。⑥ 姓の一つ。等の意味を有する。

新字源<sup>8)</sup>では【歯】は、①は。⑦口の中にあって食物をかみくだく、かたい器官。④きば。象牙の類。「歯革」⑨歯のように並んだもの。歯に似た作用をするもの。「鋸歯」②よわい。⑦とし。年齢。「年歯」④寿命。③よわいする。⑦ならぶ。同列に立つ。④仲間に入れる尊重する。⑨(馬の)年齢を数える。④たぐい。同類。⑤しるす。戸籍にのせる。また、任用する。⑥あたる。ふれる。⑦歯歯(→多くの白い石がならんでいるさま)。等の意味を有する。

歯は、「は」「よわい」ばかりでなく、多数の意味を有する。「歯す」と言う動詞まである。非常に多義的である。

#### IV. 牙の意味の検討

##### (一) 国語辞典

広辞苑<sup>5)</sup>で「牙」を調べると、き-ば【牙】(き-はの意)①食肉獣などに見られ鋭くとがった大きな歯。ネコ目(肉食類)などでは犬歯、ゾウでは上顎切歯。②単に、歯。③人の犬歯。とあり、「牙」は「歯」ないし「犬歯」を意味する事が知られる。「牙を噛む、牙を研ぐ、牙を鳴らす、牙を剥く」の成句が例示されている。「牙を研ぐ」「牙を剥く」は獣からの比喩表現であろうが、「牙を噛む」「牙を鳴らす」はヒトの行動の比喩であろう。「牙を噛む」は「歯をくいしばって、あるいは歯ぎしりして、

非常に悔しがる。切歯する。」事を意味し、「牙を鳴らす」は「歯ぎしりしてひどく悔しがる。敵意をむき出しにする。」事を意味する。歯をくいしばったり、歯ぎしりして悔しがる際に「犬歯」だけで行うとは考えられないので、これ等の成句の「牙」は明らかに「歯」を意味している。

ところで、上述の成句の中で、「歯を噛む」「牙を噛む」あるいは「歯の根を鳴らす」「牙を鳴らす」は歯と牙とが置き換わっているだけで意味は同じである。歯と牙とは両者共に「は」を意味するが故に置換えが可能だと思われる。

##### (二) 漢和辞典

何と言っても「牙」は漢字なので、いくつかの漢和辞典に当たってみた。

漢語新辞典<sup>6)</sup>では【牙】(図1)は、

【字義】①は(歯)。⑦歯の総称。歯とも牙ともいう。④奥歯。⑨いときり歯。犬歯。②きば。⑦哺乳動物の奥の歯の特に大きく成長したもの。ライオン・犬猫などの犬歯、象の門歯の大きくなったもの(象牙)など。③かむ(噛)。かみつく。④天子または将軍の旗。牙旗。⑤本営。将軍の旗の立っている所。⑥役所。牙門。⑦さいとり。仲買。売買の仲介をして手数料をとる者。「牙銭」⑧め。また、めばえる。等の意味を有する。

【解字】象形。牙の上下がまじわる形にかたどり、きばの意味を表わす。

牙は、「歯の総称」である。または奥歯を意味する事も有り、狭義には犬歯・いときり歯を指す事もある。

漢字源<sup>7)</sup>では【牙】(図2)は、

①きば。上と下とがちぐはぐにかみあう犬歯。糸切り歯。



また、転じて犬歯から後方にある奥歯のこと。②象牙でこしらえたもの。また、象牙製である。「牙牌」③L型にかみあう部分。④(省略)⑤「牙牙(ガガ)」とは、女兒のかわいい声の形容。⑥姓の一つ。等の意味を有する。

**解字** 象形。牙の金文はL型にかみあわせたさまを描いたもので、𪔐(きめこみ細工)の原字。転じて、ちぐはぐにかみあう歯のこと。

**類義** 歯は食物をかみとめる前歯のこと。

熟語の例示として【牙齒(歯)】きばと、前歯。また、前歯と奥歯。「幸有牙齒存(幸ヒニ牙齒ノ存スル有リ)」(杜甫・垂老別)とあり、「牙齒」の熟語が確認出来る。幸いに、まだ歯が残っている慶びを表わしている。

新字源<sup>8)</sup>では牙(図3)は、

①は。𪔐歯。㊦いときりば。犬歯。④歯の総称。②きば。㊦動物の前歯と奥歯のあいだにある鋭い歯。④象のきば。「象牙」㊦身を守り助けるもの。「爪牙」③かむ。𪔐咬。④さおの先にぞうげのかざりのある、天子または將軍の旗。「牙旗」⑤本營。牙旗の立っている陣營。⑥役所。官署。⑦さいとり。仲買い。「牙郎」⑧め。きざし。「萌芽」㊦芽。⑨→牙牙 等の意味を有する。

牙は、「歯の総称」とあるので、第一義的には「は」を意味し、歯と牙は同じ意味を有する漢字であると言う事になる。いときりば・犬歯を意味する事もある。

牙は、歯と同様に、多数の意味を有する。非常に多義的である。

漢語新辞典<sup>6)</sup>は、「牙」は「歯の総称。歯とも牙ともいう。」また「奥歯」「犬歯」並びに「きば」と記載しており、新字源<sup>8)</sup>は、「牙」は「犬歯」「歯の総称」並びに「きば」と記載しており、漢字源<sup>7)</sup>は、「牙」は「きば。上と下とがちぐはぐにかみあう犬歯。転じて奥歯」と記載しており、「歯」は「前歯のこと。」と記載している(図1～3)。漢語新辞典<sup>6)</sup>と新字源<sup>8)</sup>とは、牙は「歯の総称」としているのに対し、漢字源<sup>7)</sup>は牙は「犬歯・糸切り歯」また転じて「犬歯から後方の奥歯のこと」と限定している。更に「歯は食物をかみ止める前歯のこと」と記載してる。

漢語新辞典<sup>6)</sup>と漢字源<sup>7)</sup>とが、牙は「犬歯・犬歯から後方にある奥歯のこと・奥歯」、歯は「食物をかみ止める前歯のこと」と記載している事は非常に興味深い。この点に関しては後に改めて言及する。

なお、医学では前歯には切歯と犬歯とが含まれるが、国語辞典並びに漢和辞典における前歯は、切歯ないし門歯を意味し犬歯は含まれていないので注意が必要である。

### (三) 医学用語辞典<sup>3)</sup>

医学部の学生時代に牙関緊急Kieferklemmeを習ったので、調べてみたところKieferklemme, Kiefersperre(lockjaw, trismus) 開口障害は収載されていたが、牙関緊急を見出すことは出来なかったので

広辞苑<sup>5)</sup>で調べたところ、がかん-きんきゅう【牙関緊急】咬筋が異常に緊張して開口が妨げられる状態。破傷風・テタニー・ヒステリー・てん痙等の際全身痙攣に伴って起きる。の記載を見出した。しかし、牙関緊急は咬瘰とも呼ばれたが、それは収載されていない。しかし、大辞泉<sup>9)</sup>には収載されていた。こう-けい【咬瘰】口を開こうとすると口の筋肉が痙攣して、歯を食いしばるような状態になる症状。破傷風の初期にみられ、ヒステリー・癲癇(てんかん)などでも現れることがある。牙関緊急。

医学部において「牙関緊急」を学んだ時に、我々学生は全員がこの用語に「歯」の文字が含まれていないにも拘わらず「牙」に全く違和感を感じる事は無く、歯をがちり噛みしめる事だと納得した。

### (四) 現代中国語における牙

歯牙の日本語と中国大陆における“普通話”と呼ばれる現代中国語との比較を表1に示した。

日本語の歯科・歯科医は中国語では牙科・牙医であり切歯・犬歯・小白歯・大白歯は各々切牙・尖牙・双尖牙・恒磨牙である。

これら以外に幾つか挙げれば歯槽骨・埋伏歯・抜歯創・歯痛・歯刷子は、それぞれ牙槽骨(骨)・埋伏牙・抜(拔)牙創(创)・牙痛・牙刷である。

すなわち「歯」に対応する中国語は「牙」である。「牙」は「は(tooth)」を意味する。

犬歯は、その形態通り尖牙であるが、虎牙・犬牙とも呼ばれるのは明らかに犬歯(尖牙)に食肉獣の「牙<sup>きば</sup>」との類似性と「牙」の痕跡とを認識していると思われる。

中日辞典<sup>10)</sup>に依れば、牙yá【1】1 歯 2 象牙 3 歯のような形をしたもの 4 (姓)牙【2】以下省略と収載されている。

日本語の「歯」は現代中国語では「牙」である。

日本語の「歯牙」は、中国語では「牙齒(歯)」であるが、「歯(歯)牙」も用いられる。牙も歯(歯)も同じ意味である。同じ意味の漢字の熟語による組合せが「歯牙」または「牙齒」である。

### (五) 歯の解剖学における牙

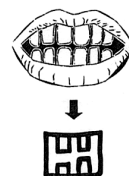
藤田の「歯の解剖学<sup>11)</sup>」によれば、犬歯は、明治初年の医学書である『布列私解剖図譜』では『牙齒』を用いている。

「犬歯は全歯群の中で最も丈の高い歯で、歯冠は隣の歯よりも歯列上に突出し、また、歯根の先端も他の歯に比べるとより深く顎骨の中に植え込まれている。」

「正常状態では一つの歯列を構成する歯は常に近遠心的に相接触しているはずであるが、実際は歯列の所々に間隙を生じていることが珍しくない。このような間隙を歯隙という。」「普通よく表れるのは上顎の左右の中切歯間および側切歯間と犬歯との間である。」「類人猿やサルでは上下の犬歯の発育によって上顎では側切歯と犬歯の間、

表1 歯牙の日本語と中国語との比較.

日本語表現	中国語表現
歯科	牙科 齒科
歯科医	牙医 牙科医生 牙科大夫
歯科医院	牙科诊所
歯科技工士	牙科技工(士)
歯牙	牙齿
乳歯	乳牙
永久歯	恒牙
中切歯	中切牙
側切歯	側切牙
犬歯	尖牙 虎牙 犬牙
第一小臼歯	第一双尖牙
第二小臼歯	第二双尖牙
第一大臼歯	第一恒磨牙
第二大臼歯	第二恒磨牙
第三大臼歯	第三恒磨牙
歯肉	牙龈
歯髄	牙髓
歯根膜	牙周膜
歯列	牙列



齒

𪗇

𪗈

𪗉

𪗊

【音読み】シ 【訓読み】は／よわい 【意味】①は。口の中にあつて物を噛む部分。②歯のようなもの。「ゲタの歯」③よわい。年齢。【解字】本来は「齒」と書く。象形。人が大きくあけた口から、何本かの歯が見えている形にかたどる。もとは、人の歯の意。動物の年齢は歯の数でわかることから、引いて「よわい」年齢の意味にも使われる。のち、年齢の意味には、音符《令》レイを加えた「齡」(齡)がもっぱら用いられるようになった。常用漢字は省略形による。

図4

甲骨文字から歯の文字の誕生 文献14) より引用、一部改変。

下顎では犬歯と第一小臼歯の間に歯隙をもつ。ヒトも著しくはないがこの傾向をもつものである。」と記載されている。

ヒトの犬歯と類人猿の犬歯=牙との類似性を認め、ヒトの犬歯が牙の痕跡である事を示唆している。

## V. 考 察

### 1. 歯と牙と、並びに歯牙と牙齒と

上で国語辞典<sup>5)</sup>並びに漢和辞典<sup>6-8)</sup>から「齒」も「牙」も非常に多義的である事を知った。それ等を纏める意図で、以下に大漢語林<sup>12)</sup>によって「齒」と「牙」との意味を示すと共に医学並びに本稿に関係の深いと思われる「齒」「牙」から成る熟語、並びに「年齒」「年齢」等を検討してみたい。

【齒】①は。⑦口中の食物をかみくだくもの。また、獣の牙の類。「歯牙」④歯の形をしたもの。また、歯に似た働きをするもの。「鋸齒」「齒車」

②よわい。年齢。年。「年齒」

③よわいする。⑦年齢順に並ぶ。「齒次」④つらなる。同列に並ぶ。

④かず(数)。また、かぞえる。馬の歯を見てその年を数える。

⑤さいころ。

⑥たぐい。同類。仲間。

⑦はじめ。年長。

⑧しるす(記)。記録する。

⑨あたる(当)。触れる。「齒剣」

齒を意味する象形文字に音符の「止」が加わった形声文字の「齒」(図4)はこの様に多数の意味を有するよう発展した。幾つかの熟語を挙げてみると以下の通りである。

齒位 ①年齢による序列。②長寿と高位。

齒序 年齢の順序。

齒長 としより。長老。

齒牙 ①歯。また、歯ときば。[漢書、東方朔伝] ②口の端。論議。言葉。[史記、晋世家]

置齒牙(シガにおく) とりあげて問題とする。注意をほらう。歯牙にかける。[史記、叔孫通伝]

挂齒牙(シガにかく) = 置齒牙

齒齦(シギン) はぐき(歯茎)。はじし。

齒剣 剣にふれる。自殺すること。また、斬り殺されること。歯は、当たり触れる意。

齒算 とし。よわい。年齢。年齒。

齒次 年齢順に並ぶ。齒坐。また、歯なみのように順番に並ぶ。

歯録 ①順序よくならべて記録する。②同年に科挙に合格した者たちの、姓名・年齢・本籍および三代の父祖の名を印刻した冊子。「同年録」ともいう。

歯冷 つめたくあしらう。見さげる。また、際限なく笑うこと。笑いがやまないこと。歯が冷たくなるからいう。不歯（シせず）①戸籍に載せない。②年齢順に席に着くとき、その人の当然着くべき席に、遠慮して着かないこと。また、同列に扱わないこと。問題にしないこと。

没歯（シをボッす） 命が終わる。死ぬ。

「歯」の文字からは「自殺する」「年齢順に並ぶ」「よわいする」や「記録する」意味は想像も付かない。「歯剣」「歯次」「歯坐」や「歯録」の熟語でなければ、いや、熟語の説明を読まずしては歯剣も歯次・歯坐も歯録も全く理解出来ない。それ程に「歯」は多義的である。

国語辞典<sup>5, 9)</sup>を引けば、よわい【歯・齢】が立項されている。同じ意味の漢字「年」との組合せによる「年歯」「年齢」は共に「“年齢”」を意味する<sup>6-8, 12)</sup>。「年歯」は莊子（莊周）（戦国時代 生没年不詳）著「莊子」に認められる<sup>12)</sup>。

Gingivaには解剖学用語・学術用語として「歯肉」が宛てられている。しかし、某名門歯科大学では一貫して「歯齦」を使用している。随分奇妙な用語に拘り続けていると感じていた。ところが、漢和辞典には歯齦は載っているが歯肉は載っていない。歯肉はZahnfleischの直訳なのであろうが、歯齦の方が由緒正しい漢語である。歯齦とも言う。歯肉が解剖学用語に決まった経緯はそもそも何だったのであろうか。歯肉の用語が奇妙である事を既に町屋<sup>2)</sup>が別の見地から指摘している。

【牙】 ①きば。㊦動物の上下のあごにある、とがった犬歯、または門歯。④武器・悪意など、人を害するものをいう。「爪牙」

②は(歯)。㊦歯の総称。歯とも牙ともいう。④奥歯。㊦いときり歯。犬歯。

③かむ。かみつく。

④天子または将軍の旗。竿の先の象牙の飾りがある。「牙旗」

⑤本営。将軍の旗（牙旗）の立っている所。

⑥役所。「牙門」

⑦さいとり。仲買。売買の仲介をして手数料をとる者。「牙銭」

⑧め(芽)。また、めばえる。=芽。

「牙」も多数の意味を有するように発展した。幾つかの熟語を挙げてみると以下の通りである。

歯齦（ガギン） はぐき。

歯齒 は。歯牙。[本草、牙齒]

牙車（ガシャ） あごのほね。[釈名、釈形体]

牙頰（ガキョウ） 歯とほお。口をいう。

牙営 将軍の陣屋。本陣。将軍の旗である牙旗が立って

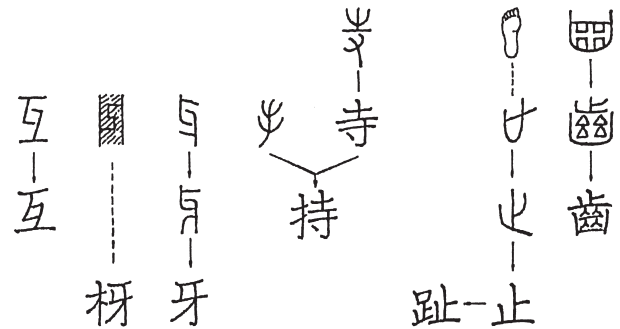


図5

音符「止」と「牙」「互」の起源の解説 文献13)より引用。

いる陣営の意。

牙簡 象牙のふだ。書物や文書をいう。

牙後慧（ガゴケイ） 人の意見を受け売りすること。一説に、人の意見を聞かなくても、それを理解すること。

三つの漢和辞典<sup>6-8)</sup>で「牙」を調べてみたところ、広義には「は (tooth)」, 狭義には「犬歯=いときり歯」「犬歯より後ろの奥歯」を意味する。いずれにしてもヒトの口腔内に存在する。大漢語林<sup>12)</sup>でも、牙は歯の総称であると同時に犬歯ないし奥歯を意味する事が知られた。町屋<sup>2)</sup>は「牙」に関していか程の検討を重ねてヒトの口腔内に「牙」は無いと結論付けたのであろうか。

さて、「牙」の文字は、上下の歯がちぐはぐに噛み合う様から成立した文字である事は分かるとしても、牙が犬歯より後方の奥歯を指すとする意味がよく分からない。上下顎の一歯対二歯の接触関係をちぐはぐに噛み合うと認識した為であろうか。

上で漢字源<sup>7)</sup>は「歯は、食物をかみ止める前歯のこと。」「牙は、犬歯から後方にある奥歯のこと。」と記載されている事を述べた。恐らく、歯科医学を学んだ者でも「歯」と「牙」との間にこのような意味の違いがある事を教えられた事は無いのではないか。この点に関して藤堂<sup>13)</sup>は、「歯」の字は、甲骨文字では上下の前歯を描いた象形文字であった。後にその上部に『止』の音符が加わって『齒』という文字となった。『止』はヒトの足の地に着く部分を描いた字で、後世の趾（あし）の字に、その原義が残っているが、厳密にいうと『ジッと地上をふみしめて止めた』足の形である。そこで『止』を音符とする漢字は、たいていジッと止まるという意味を含んでいる。じつは寺の字の上部土型に見える部分も、この止の変形であるから、ここに含めて考えてみよう。趾（ジッと止まった建物や土台のあと）— 社（神の恵みがジッとそこに止まっている）— 峙（ジッと立ち止まる）— 侍（ジッと人のそばにはべって立つ）— 待（ジッと立ってまつ）— 持（ジッと手にもつ）・・・どれを見ても、止める（止まる）という基本的な意味が、脈々と流れてい



るではないか。前歯<sup>シ</sup>を歯というのも、もちろんこれらのグループと関係がある。というのは、前歯は食物をジッとかんでくい止める働きをするからである。前歯でかみ止める動作は、細工をするさいに、木の一端や釘をくわえたり、ヒモの端をくわえたりする時にも、その役割を發揮する。つまり手の『持（ジ）』という動作の一部分を、ハのかみ止める動作で代用することさえ出来るのである（「ジッ・ハ」は原文通り）。これに対して、牙の字はもとL型にくい違っ<sup>シ</sup>てかみ合うさまを表わす字であった（図5）。柱や車の杵木を継ぐさいに、大工さんが、両方に切り込みを入れてかみ合わせる。その細工を枅<sup>ガ</sup>というから、牙は後世の枅の原字だと考えてもよい。そのかみ合いの姿をもっと明白に表わすのが互の字である。互とは上からし型に、下から┘型に伸び出た切り込みが、中央でたがいにかみ合ったさまをしめしている。牙と互とは、ほとんど同じコトバを表わした二つの漢字だと言っても、差し支えない（図5）。（「コトバ」は原文通り）（一部改変）」と解説している。

歯も牙も歯牙も歯歯も、何れも中国大陸から日本にもたらされたが、使用する漢字や使用する熟語並びに熟語の語順が彼我で異なるのは特に珍しい事ではない。表1から知られる様に、ヒトの口腔内に有る「歯」は現代中国語では「牙」である。たまたま日本では歯牙が歯の意味に用いられているが、現代中国語では「牙齒（歯）」（「歯（歯）牙」の表記も用いられる）である。たまたま日本語では歯を多用するだけで、牙が歯を意味すると考えて何ら問題は無い。漢字が本来的に有する意味を考慮すれば、ヒトの口腔内に「牙」は無いと考える蓋然性は全く無い。

「歯牙」は、前漢の司馬遷（紀元前百四十五～紀元前八十六）撰「史記」や後漢の班固（三十二～九十二）撰「漢書」に認められる<sup>12)</sup>。「牙齒」は杜甫（七百十二～七百七十）の作品に認められる。少なくとも歯牙は二千年、牙齒は一千三百年に渡る歴史を有する漢語である。尚、歯牙と牙齒とで語順が異なるが、これは特に珍しい事では無い。日本語と現代中国語とで語順が異なるものを幾つか挙げると平和・救急・面会・制限・苦痛・紹介・運命・兵士・情熱・音声・抑圧・限界・講演・氏名・誘引・胃腸・頻尿・検尿・絶滅・言語... 等がある。すなわち、平和は中国語では和平、救急は中国語では急救、面会は中国語では会面、制限は中国語では限制、苦痛は中国語では痛苦... 等である。

## 2. 牙関緊急

医学部において「牙関緊急」を学んだ時に、この用語に歯の文字が含まれていないにも拘わらず牙に違和感を感じる事無く歯をがっちり噛みしめる事だと納得した。

牙が歯を意味することに全く違和感が無かった事を述べて、「牙」が「歯」を意味する傍証にしたい、敢えてこ

の用語を引用した。

上述の通り、国語辞典<sup>5, 9)</sup>によってこの用語を調べる事が出来るが、医学用語辞典<sup>3)</sup>には載っていない。学術用語集 歯学編<sup>4)</sup>では、牙関緊急→開口障害となっているので、最早医学では用いられない用語となっている。

それにしても、改めて「牙関緊急」に注目してみれば何とも奇妙な用語ではないか。牙関とは何か。緊急とは何か。

「牙関」に関しては、手許の漢和辞典<sup>6-8)</sup>では何の手がかりも無かったが、大きな辞典<sup>12)</sup>で調べてみたら、あった！

【牙関(關)】あごの骨。また、奥歯。[唐、孟郊、懊惱詩]

この「牙」は「奥歯」と関係が有るらしい。「牙は奥歯を意味する」という漢語新辞典<sup>6)</sup>・漢字源<sup>7)</sup>や藤堂<sup>13)</sup>の説明と一致する。

【緊】には、①しめる。しまる。「緊張」②きびしい（急）。きつい。「緊密」、その他の意味が有り、【急】には①ひきしめる。またひきしまる。その他の意味が有る。【緊急】には、①ゆるみなくきびしい。琴の糸などのぴんと張っていること。②至急に行う必要のあること。差し迫っていること。の意味がある<sup>6-8, 13)</sup>。

通常、国語辞典には②の意味しか書いてないが①の意味が有ったのである！

牙関緊急は最早使用されず、現代の感覚では誠に奇妙な熟語に思えるが、実は「緊急」はきつくがっちり咬み締める事、奥歯をがっちり閉じる事を意味する由緒正しい熟語である事を筆者藤田はこの用語を習って五十五年以上を経た今日になって初めて知った。尚、現代中国語では開口障害（開口障碍）は牙关紧闭（牙関緊閉）とも言われる。牙関緊急と牙関緊閉とは誠によく似た用語である。

## 3. 漢字の音読みと訓読みについて

中国から伝来した漢字の原音を日本風に発音した読みを「音読み」と言い、先ずやまと言葉（日本語）が有り、そのやまと言葉に充てた漢字の読みを「訓読み」という。

漢語には、きっちりという意味を確定する為に同じ意味の漢字を組み合わせた熟語が非常に多い。その一<sup>1)</sup>においてこれ等の熟語を既に列挙した。その数は多く、枚挙にいとまが無い。漢字の熟語に接した我々の祖先は、「関与」に接して中国語では「カンヨ」と発音される事（音読み）を知ると同時にやまと言葉で「関る」「与る」と翻訳読み（訓読み）した。同様に、計量は計る・量る、展開は展<sup>ハ</sup>く・開く、造作は造る・作る、依拠は依る・拠る、努力は努<sup>ツ</sup>める・力<sup>ツ</sup>める... であった。しかし、「歯牙」に接した我々の祖先は、「牙齒」とも表記され、いずれも口腔内の「は（tooth）」を意味する事を知りながら、「歯」「牙」ではなく「歯」「牙」の訓読みを施した。すなわち、牙に「は」の訓読みを付与しなかった。この事が時代を下って

二十世紀も末になって、ヒトの口腔内に「<sup>きば</sup>牙」は無いと言う疑念の生まれる淵源でもあった。中国大陆においては「は」の意味に「<sup>や</sup>牙」を用いるので、勿論ヒトの口腔内に「<sup>きば</sup>牙」は無いと言う妄言を吐く者はいない。

ヒトの口腔内に「<sup>きば</sup>牙」は無いと言うならば、むしろ食肉獣の牙も象の牙も同じく「<sup>きば</sup>牙」と呼ばれる事に異議を唱えるべきである。後者は口腔内に存在せず、咀嚼に全く関与せず、しかも発生学的には門歯（動物学では切歯と呼ばない）である。食肉獣の牙と象の牙は似て非なるものである。

#### 4. 学術用語と漢字の熟語

漢語では通常、名詞や動詞は漢字一字を用いるよりも二字以上の熟語として用いられる事が多い。同じ意味を有する漢字を組み合わせると、豊富な内容を盛り込みその意味するところが一層明確になり、他の意味に誤解される事が無くきっちりと意味が確定するので明快且つ確固たる用語を造る事が可能である。また、一字よりも熟語の方が安定感がある。これ等は漢語の大きな特徴である。更に漢語の凝縮した硬質な響きから格調の高さも確保される。学術用語が、今や日本語となっている漢字の熟語から成り立っているものが圧倒的に多い所以である。

やまと言葉は、仮名だけでは読み難い上に仮名漢字交じりでも時に冗長で締りが無い。「あたまのいたみ」は、漢字を交ぜた「頭の痛み」の方が分かり易いが、更に漢語で「頭痛」と表記した方が遥かに単純明快である。

くちからのむくすり→口から飲む薬→経口薬

はじめてみたとき→初めて診た時→初診時

はのやまい→歯の病→歯牙疾患

つかれるかんじ→疲れる感じ→倦怠感、…等 漢字の熟語は簡潔明瞭である。従って、医学用語の多くは漢語の用語が用いられている。確かに、ネコひっかき病・もやもや病・むずむず脚症候群・イタイイタイ病等の様に漢語ではない医学用語もあるが、今や漢語は完全に日本語に成っている為に、漢語を使用せずにやまと言葉だけによる医学用語は、例文を挙げるのにさえ苦勞する程である。「<sup>し</sup>歯牙〇〇」と「<sup>は</sup>歯の〇〇」の差異はまだしも、一般論を述べれば、やまと言葉よりも漢語の方が単純明快である。

「<sup>し</sup>歯牙」は音読みの漢語である。それに対して「<sup>は</sup>歯の」は訓読みの極めて口語的な響きの軽いやまと言葉である。音読みから成る「<sup>し</sup>歯牙〇〇」を「<sup>は</sup>歯の〇〇」と表記する事は、訓読みの「<sup>は</sup>歯の」と音読みの「〇〇」との組み合わせとなる。「<sup>し</sup>歯牙〇〇」の様な漢語の熟語を、何故「<sup>は</sup>歯の〇〇」の様に訓読みと音読みの組合せから成る奇妙な医学用語に変更する必要があるのであろうか。「<sup>は</sup>歯の」は漢語の硬さが緩和される点が利点と考えられるとも言えるが、格調ある漢語の響きは失われるとも言える。また、

訓読みの「<sup>は</sup>歯の」の後ろに音読みの漢語「〇〇」では何かちぐはぐな接ぎ木の様に感じられる。

置かれた環境や年代等によって各人各様の考えが有る事は十分承知しており、各人各様の用語の用い方を否定する積りは毛頭無い。しかし、筆者等は漢語から成る医学用語、すなわち音読みの漢字熟語の医学用語の方を選びたい。すなわち、「<sup>し</sup>歯牙〇〇」の方が医学用語としては相応しいと考える。

#### 5. 漢字の多義性とその解消方法

歯も牙も共に多義的となった。一つの文字が多義的となり、その漢字一字だけが用いられるならば、その意味する所は文脈で判断するしか方法は無く、時に誤解も生まれかねない。従って、しっかり意味を確定する為には多義性の解消が必要になる。

多義性を解消する方法には、一つには形声文字や仮借文字により漢字字体を変更する方法と、他の一つには同じ意味を有する他の漢字と熟語を形成する方法とがある。漢字の組合せは造語力に優れ豊富な意味内容を盛り込み多義的な漢字の意味を確定させる事が可能である。

前者の例として、その一<sup>1)</sup>において「よわい」を意味する「齒」は音符の「令」を加えて形声文字の「齡」に字体を変更し、「はな」を意味する文字は当初は「自」であったが「鼻」に字体を変更し、「もえる」を意味する文字は当初は「然」であったが「燃」に字体を変更した事を示した。これ等の他に例を挙げれば、【女】は㊦①おんな。㊧②むすめ。㊨③小さくてかわいいもののたとえ。㊩④星の名。うるき。㊪⑤なんじ。おまえ。㊫⑥めあわす。嫁にやる。㊬⑦つかえる（仕）。等の多くの意味を有する<sup>12)</sup>が、その中㊪の「なんじ。おまえ。」を意味する「女」は、既に存在していた「汝」を借りて「汝」を「なんじ」の意味で使用した事にした<sup>12)</sup>（仮借文字）。【制】は㊭①つくる。整える。裁ち切ってほどよく仕立てる。「制作」㊮②さだめる（定）。きめる。「制定」㊯③おさえる。㊰④押さえつける。禁止する。「禁制」㊱④ひかえる。押さええてほどよくする。「抑制」㊲⑤しばる。束縛する。㊳⑥したがわせる。㊴④とる。占める。手中に収める。「制勝（かちをセイする）」㊵⑤⑥㊶⑦⑧⑨⑩省略 等の多くの意味を有する<sup>12)</sup>が、その中㊭の「つくる。整える。裁ち切って仕立てる。」を意味する「制」は、「衣+制」の形声文字「製」とした。この「製」は㊷①たつ（裁）。㊸②つくる。こしらえる。㊹③材料を用いて物をこしらえる。㊺④詩文を作る。㊻⑤作られたもの。また、作られた詩文。「御製」㊼⑤⑥省略 等の意味を有する<sup>12)</sup>。「制」の有していた㊮②以下の意味は「製」には含まれない。これにより多義性は解消された。しかし、「製」そのものも、その後次第に多義的と成った事が分かる。

後者の例として、同じ意味の漢字の組合せによる熟語を、その一<sup>1)</sup>において既に多数の例を示した。更に上で関与・計量・展開・造作・努力を例示した。その他に



も恐怖・膨脹・勤務・遷移・牽引・把握・延伸・応答・代替・帰還・荷担・収納・上昇・下降・勧奨・価値・付着・滅亡・物品・特殊・歓喜・衝突…等が挙げられる。同じ意味の漢字の組合わせできっちりと意味を確定する熟語は漢語の注目すべき特徴である。年も歯も同じく「よわい (age)」の意味を有する。同じ意味を有する漢字「年」と「歯」との相互補完的な組合せによる「年歯」はより一層明確に「よわい (age)」を意味する事となる。また、同じ意味を有する漢字「年」と「齢」との相互補完的な組合せによる「年齢」も明確に「よわい (age)」を意味する事となる。これにより「歯」の有していた「よわい = “年齢”」以外の意味と誤解される事は無くなり、多義性は解消された。

全く同様に、歯とか牙とか単独では、各々多義的であるが必ずしも意味が判然としないが、共に「は (tooth)」を意味する「歯」と「牙」との相互補完的な組合せによる熟語「歯牙」あるいは「牙齒」は「は (tooth)」を意味する事となる。これにより「歯」「牙」の有していた「は (tooth)」以外の意味と誤解される事は無くなり、他ならぬ「は (tooth)」の意味が確定的になり、多義性は解消された。

ここで述べている漢字の多義性解決過程の理解が容易なように視覚的に示せば以下の通りである。

①形成文字あるいは仮借文字によって漢字の字体を変化させる

女 (なんじ) ⇒ 汝 (仮借文字)

制 (つくる) ⇒ 製 (形成文字)

歯 (よわい) ⇒ 齢 (形声文字)

②同じ意味の漢字の組合せにより熟語を形成する。

牙 (は tooth) ⇒ 歯牙・歯牙

歯 (は tooth) ⇒ 歯牙・歯牙

歯 (よわい age) ⇒ 年歯

歯 (よわい age) ⇒ 齢 ⇒ 年齢

## 6. 歯牙から歯への移行

現実的には確かに「歯牙」から「歯」への移行が認められる。その歯牙から歯に移行する理由を調べる過程で、藤田の「歯の解剖学<sup>11)</sup>」第1版の序に、この「歯の解剖学」はこれまで「歯牙解剖学」あるいは「歯牙形態学」と称えられていたものに相当するとの記載を見出した。歯牙から歯への移行が昭和二十四年に既に認められる。しかし、この著書の中で歯牙記号や歯牙支持組織等の用語が用いられているので特別の意図が有って「歯牙」の使用を避けて「歯の」としたものではないと思われる。しかし、詳細は不明である。

既述の通り、日本口腔外科学会は「歯」を用いており、学術用語集 歯学編<sup>4)</sup>では「歯牙〇〇」の用語も認められるが、[歯の〇〇]の用語も多く収載されている。しか

し、如何なる時に「歯牙」を用い、如何なる時に「歯の」を用いるか、その使い分けの基準は不明である。「歯」への移行の理由・根拠の一つとしてヒトの口腔内に「牙」は無いので「歯牙」は不適切という考えは聞かされる。しかし、いざ「歯牙」から「歯」への移行の理由・根拠を文献的に渉猟してみてもヒトの口腔に牙は無いので歯牙はおかしいとする町屋の意見<sup>2)</sup>を除けば文献的に確認する事は出来なかった。

## VI. 要 約

1. 多くの漢字についても言える事であるが、歯も牙も共に多くの意味を有する。すなわち多義的である。
2. 歯と牙との両者共に「は (tooth)」の意味を有する。
3. ある漢字が多義的である場合に、その中のある意味を明確にしたい場合には、①漢字の字体を変化させて新しい別の漢字に姿を変える方法と②同じ意味を有する他の漢字と熟語を形成する方法との二つがある。
4. 歯 (よわい age) に関しては、①の方法によって、音符「令」を加えて「齢」とする事で「よわい」を意味する新しい漢字が生み出された。それによって「歯」の多義性は解消された。また②の方法によって、同じ意味を有する「年」と熟語を形成する事で「よわい」を意味する「年歯」の熟語が生み出された。また齢によって多義性は解消された筈であるが更に年と熟語を形成する事によって「年齢」の熟語も生み出された。それによって「歯」の多義性は解消された。

歯 (は tooth) に関しては、②の方法によって、同じ意味を有する「牙」と熟語を形成する事で「は」を意味する「歯牙」あるいは「牙齒」の熟語が生み出された。それによって「歯」の多義性は解消された。

5. 牙 (は tooth) に関しては、全く同様に②の方法によって、同じ意味を有する「歯」と熟語を形成する事によって「歯牙」あるいは「牙齒」の熟語が生み出された。それによって「牙」の多義性は解消された。

6. 長い歴史の中で、たまたま日本では歯牙を用い、中国大陸では牙齒(歯)を用いる事になった。

7. 長い歴史の中で、他の漢字と熟語を形成する為に歯牙あるいは牙齒の一字を使用する際に、たまたま日本では「歯」を用い、中国大陸では「牙」を用いる事になった。

8. 牙は「は (tooth)」を意味するので、牙はヒトの口腔内に存在すると断言出来る。ヒトの口腔内の「歯」を「歯<sup>シ</sup>牙」と表記する事は優れて正当である。従って、ヒトの口腔内に「牙」は無いので医学用語「歯牙」はおかしいとする指摘があるとすればそれは当たらない。

9. 熟語「歯牙」は、既に二千年以上前の「史記」や「漢書」に認められる。恐らく、実際にはそれ以上に成立

していたと思われる。

10. 「歯牙」を単に「歯(の)」と表記する事は漢語の熟語変遷過程に逆行するもので、当を得ていない。従って、筆者等は「歯牙」を医学用語として相応しいと考え、正当性を擁護したい。すなわち、「歯(の)」ではなく「歯牙」を用いるべきであると考え。

因みに「歯牙」は、文脈で容易に分かるとはいえ、単に「は」を意味するばかりでなく「言葉・論議」への転義が生じた。

11. 現実的には、医学用語「歯牙○○」が「歯の○○」に移行しているが、その理由・根拠を明らかにする事が出来なかった。

## Ⅶ. 結 語

医学用語「歯牙」の正当性を擁護する為に、「歯」並びに「牙」の意味と熟語「歯牙」の成立根拠を検討した。

「歯」と「牙」とは種々の意味を有し、両者共に多義的となった。しかし、両者共に「は (tooth)」の意味を有しているので、多義性を解消して「は (tooth)」の意味を明確にする為に熟語「歯牙」「牙齒」となり、ここに「歯牙」「牙齒」は「は (tooth)」しか意味せず、はっきりと「は」の意味が確定した。

たまたま「は」の意味に日本では「歯」「歯牙」を用いるが、中国大陸では「牙」「牙齒」を使用する。

医学用語「歯牙」は「歯牙」のまま使用するのが最適であると思われるので筆者等は、医学用語「歯牙」「歯牙年齢」の正当性を擁護したい。

尚、句読点に関しては、漢和辞典からの引用は辞典に記載の通り「。」「、」のまま引用し、箇所によってはかぎ括弧を省略した。本文は本誌の「投稿規程」の通りに「。」、「、」を用いて記載した。

また、文献の巻号、発行年月は、奥付の通りとした。算用数字と漢数字との混在はこの為である。

## 文 献

- 1) 藤田 淨秀, 座間 正和, 李 憲起: 医学用語 歯牙・歯牙年齢の正当性を擁護する その一. 齢の中になぜ歯が含まれているのか. 横浜医学, **71**: 47-52, 2020.
- 2) 町屋仁躬: 歯科用語あれこれ. 東京医科歯科大学 歯科同窓会会報, **No.180**: 61-63, 平成24年2月.
- 3) 日本医学会 医学用語委員会 編: 医学用語辞典, 第9刷. 南山堂, 1986年7月.
- 4) 文部省 日本歯科医学会 編: 学術用語集 歯学編 (増訂版). 口腔保健協会, 平成4年11月.
- 5) 新村 出 編: 広辞苑, 第七版 一刷. 岩波書店, 二〇一八年一月.
- 6) 鎌田 正, 米山寅太郎 著: 漢語新辞典, 初版. 大修館, 2001年4月.
- 7) 藤堂明保, 松本 昭, 武田 晃, 加納喜光 編: 漢字源 改訂第4版. 学習研究社, 2007年1月.
- 8) 小川環樹, 西田太一郎, 赤塚 忠, 阿辻哲次, 釜屋 武士, 木津祐子 編: 新字源, 改訂新版 初版. 角川書店, 2017年10月.
- 9) 松村 明 監修, 小学館国語辞典編集部 編: 大辞泉, 第二版. 小学館, 2012年11月.
- 10) 北京・商務印書館, 小学館 共同編集: 中日辞典, 第2版. 小学館, 2003年1月.
- 11) 藤田恒太郎 原著 桐野忠大, 山下靖男 改訂: 歯の解剖学, 第22版. 第1版の序/6. 歯の種類と名称 2) 犬歯, 7-9頁/6. 犬歯, 52-57頁/6. 同一歯列の隣接歯間の位置関係 歯隙, 171-172頁. 金原出版, 平成9年1月.
- 12) 鎌田 正, 米山寅次郎 著: 大漢語林, 初版. 大修館書店, 平成四年四月.
- 13) 藤堂明保 著: 言葉の系譜. 歯と牙, 81-83頁. 新潮ポケット・ライブラリー. 新潮社, 1964年7月.
- 14) 阿辻哲次 著: 漢字の知恵. ちくま新書. 筑摩書房, 二〇〇三年十二月.